

日本アンダーライティング協会

神原嘉仁氏(住友生命)が新代表理事に就任

次世代への基盤を構築

専門職としてのアンダーライターの育成と認知度向上に取り組んでいる日本アンダーライティング協会では、6月に住友生命の神原嘉仁氏が新たに代表理事に就任した。同氏は、2006年に同協会を設立した3人の原始理事としては最後の担い手となる。「アンダーライティングが生保会社の中核業務であることを内外に広め、次の世代に渡す基盤をつくることが使命だと感じている」と語る同氏に、就任の所感や今後の展開について聞いた。

——代表理事就任の所感を。

神原 今後の当協会の位置付けを考える上では、生保協会や日本保険医学会との関係構築が大きな課題になってくる。いずれの組織も国内大手生保が運営に深く関わっているという共通点があり、私自身も住友生命出身なので、運営方針も理解でき、橋渡しができるのではないかと考えている。当協会はまだ設立が



神原氏

ら12年の若い組織なので、歴史ある協会組織や保険会社の他、海外に関する知見の豊富な再保険会社などからも多くのことを学びたいと思っている。そうすることで、アンダーライティング業界のスタンダードを構築していきたい。

——どのような組織を目指すか。

神原 設立当初は33社だった法人会員が現在では49社に増え、国内で生

命保険や医療保険を販売している会社ほとんどに加盟していただいているが、その背景には、保険会社に勤務する医師の

病気でも、医学の進歩により、リスクをコントロールできる集団へと変化しているケースがある。プライシング等については個社ごとに戦略があるので明かせないが、大きな流れや方向性については当協会を通じて業界に発信できるようにしたい。また、新たな病気に

関する知識など、業界内外の先生方のお力もお借りしつつ共有できれば、

ウインドは資産運用や主計などの数理分野ということもあり、医学的な統計の数字を見れば、査定方法に係るコストとそれによつて得られるメリットを踏まえて、査定基準にまで落とし込むことができる。しかし、こうした知識を持ったアンダーライターは少ないのが現状だ。これは査定部門、さらには生保会社にとって進化の余地がある分野だと考える。新しい保険商品をつくる場合、医的知識と数理的な収支の勘所が分かっていけば、新たな審査方法を導入する

場合のコストと利益の計算ができる。さらに、ベ

供していきたい。——最近では告知書抜きの商品も増えているが。

神原 確かに告知書抜きのシンプルな商品が増えているが、告知書抜きの商品のデメリットとして、延期率と謝絶率の上昇が挙げられる。また、逆選択による保険料の上昇も危惧される。こうした流れが拡大すれば、アンダーライターは不要と考える会社も出てくるかもしれない。しかし、適切なリスク評価に基づいた適切な保険料での保険商品をお客さまに提供するためには、アンダーライティングは欠かすこと

「査定業務の可能性伝えたい」

業界の成長にも貢献できない。知見を積み重ねていきたい。

——求めるアンダーライター像は。

神原 私のバックグラ

ースとなる生命表や統計全体への理解が深まれば、業務の流れを変えることができる。そういったことのできるアンダーライターが育つ環境を提

できない業務だ。そのことを理解してもらつたためにも、アンダーライターの業務品質を向上させ、会社の収益に貢献できる人材を増やしていく必要

がある。——現在の課題は。

神原 当協会は設立から12年とまだ若く、現在も生保業界の伝統的な組織からはその存在とその意義を十分に認知してもらえていないかもしれない。しかし、アンダーライターは生保業界で重要な役割を担っていると自負している。他の組織と連携しながら組織としての成長を目指したい。——今後計画していることは。

減少による生保業界内でのアンダーライターに対するニーズの高まりがある。日本に先んじて医師不足を経験した欧米では、アンダーライターは医師やアクチュアリーと同様の専門職として位置付けられ、幅広く活躍している。われわれも日本のアンダーライターの業務品質を高め、「業界内で査定に関することは日本アンダーライティング協会に聞こう」と思ってもらえるような組織に育てていきたい。

——具体的には。

神原 例えば、かつては難病と呼ばれ、引き受けることのできなかつた

に触れ、視野を広げてほしい。——査定業務に携わっている人へのメッセージを。

神原 アンダーライティングは生保会社にとつて収益を挙げる手段であ

り、契約者に低廉な保険料で保険に加入してもらうための重要な業務。日々の業務に捉われず、広い視野で業務を見つめ、向かうべき方向を見定めたい。この変化の時代にはアンダーライターが

生き延びていくためには、業務の境界域に自ら乗り込む積極性が求められる。当協会の活動を通じて、アンダーライターの業務に大きな可能性があることを感じてほしい。

神原 例えは、かつては難病と呼ばれ、引き受けることのできなかつた